

2024.4.4 (木)
第36回例会
(通算3751回)

2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2023-2024 年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう
2023-2024 年度
RI会長 ゴードン R. マッキナリー
第2500地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (紋別港 RC)

月間テーマ 母子の健康月間

本日のプログラム 講師例会「地域観光の新たなアプローチについて」(プログラム委員会)

次週例会 新入会員歓迎例会(クラブ研修委員会・親睦活動委員会)

- ロータリーソング：君が代・奉仕の理想
- ソングリーダー：戸川 達雄君
- 会員数 103名
- ビジター
- ゲスト 株式会社五明 代表取締役 五明 龍哉様

会長の時間

後藤 公貴会長



皆さま、こんにちは。4月1日より世の中は新年度となっております、その新年度のお忙しい中、このように多くのメンバーの皆さまにお集まりいただきましてありがとうございます。

北海道道、そして釧路もようやく春らしい陽気になってまいりまして、少しだけ心躍るような感情を持っていたところですが、皆さまご存知のとおり昨日、台湾東部沖を震源とする大きな地震が台湾本土を直撃しました。私どもが姉妹友好を結んでおります台北市台北中央ロータリークラブの台北市でも大変大きな揺れがあったということです。ご存知のとおり、昨年、釧路市が友好交流協定を結んだ海沿いの街・花蓮市が震度6強という大きな揺れに見舞われまして、大変悲惨な状況になっていることで心を痛めているところです。被災された方にはここからお見舞いを申し上げます。と同時に、いま釧路市も花蓮市、また台湾に対して何が支援できるのかを思案中です。私たちがロータリークラブの仲間として、そして昨年は花蓮市を台北訪問の際に訪れて歓待をしていただきました。一宿一飯の恩義のある都市であります。私たちができるこ

と、そして私たちが何をしなければならないかをロータリーメンバーの一員として考えて、今後の対応をしてまいりたいと思っておりますので、皆さまのご理解をいただきますようお願い申し上げます。

さて、本日は五明龍哉様に釧路地域観光の新たなアプローチについての例会講師として来ていただきました。五明さんはまだ36歳で、皆さんご存じのとおり、私もそうですが末広歓楽街で従事をする大変な仲間があります。そして、末広歓楽街もだんだん世代交代で若い人たちが元気に頑張っていて、様々な問題があるところを今、私も含めてなのですが一緒にその問題を早く解決しようと頑張っている仲間でもありますし、大変ご活躍に期待をする一員でございます。

本日は、釧路LOVEの五明さんのお話を伺いながら、もう一度私たちがこの地域で何ができるのか、そしてこの地域の明るい未来をどうしたら自分の立場でつくれるのかをもう一度気づき合う例会にしたいと思っています。

本日も皆さんとともに有意義な時間にしてまいりたいと思います。本日より、どうぞよろしく願い申し上げます。ありがとうございます。

幹事報告 佐藤 貴之幹事

皆さま、こんにちは。幹事報告になります。今月のロータリーレートですが先月と変わらず151円となっております。

前回の理事会議事録が出来上がりましたので掲示板に掲示しております。ご覧いただきますようお願いいたします。

続きまして、佐渡ガバナー補佐事務局よりIMのお礼が届いております。こちら掲示板に掲示しておりますのでご覧ください。

本日、泉敬君の追悼誌が出来上がりました。こちらは皆さまのパーソナルボックスに入れておりますので、どうぞご覧くださいませようお願いいたします。

最後に、来週の11日の例会は夜間例会となっております。締め切りが昨日まででしたが、まだ半数の方からご連絡をいただいておりますのでぜひ、本日中に私か大山事務局員までご連絡をお願いいたします。また、来週の会場が3階孔雀の間となっております。お間違えないようお願いいたします。

■ 本日のプログラム ■

講師例会「地域観光の新たなアプローチについて」

プログラム委員会 八幡 好洋委員長

プログラム委員会の八幡です。本日は五明さんを講師にお招きをいたしまして、『地域観光の新たなアプローチについて』



というタイトルでお話をいただきます。

五明さんは皆さまご存じのとおり、酒店を中心に様々な事業に取り組まれていらっしゃいます。今回、改めて新しいチャレンジをご用意されているということで、そのような話も聞けたならばと考えております。

それでは五明さん、よろしく願いいたします。

講話 五明 龍哉様



それでは『地域観光の新たなアプローチ』と題しまして株式会社五明の五明龍哉と申します。本日はどうぞよろしく願い

いたします。こういう場は慣れておりません。つたない発表になるかと思いますが寛大な心で見ただければと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

本日のアジェンダになります。自己紹介を軽くさせていただいた後、4部構成でお話をさせていただきます。釧路の現状、そしてなぜ観光に取り組むのか、そ

して3番目は地域観光の新たなアプローチと4番、今後・今取り組んでいることのご紹介という形でお話をさせていただきたいと思っております。

まず、自己紹介です。名前は五明龍哉と申します。今年、37歳の世代で、早生まれですから今36歳になります。1988年に釧路市で生まれ育ちました。2010年に北見工業大学を卒業後、札幌のほうで建設コンサルタント業としてサラリーマンをさせていただきました。6年後、株式会社五明に入社をしまして、2021年に五明の代表取締役役に就任となりました。

仕事以外では、2024度釧路青年会議所のほうで「くしろ式観光創発委員会」の委員長を仰せつかっております。その話も一部最後のほうでさせていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

それでは早速、アジェンダの1番、釧路の現状についてから。

本日いらっしゃる皆さまは釧路の経済界の大先輩ですので、この現状についてはサーっと流して行きたいと思っております。釧路はどのように発展して来たかということ、水産業・炭鉱業・製紙業などを中心として戦後発展を遂げてきたのですが、時代の変化や環境の変化によって今非常に厳しい状況になって来ていると思っております。水産業においては水産資源の減少であり、温暖化による魚種の変化。炭鉱業ではエネルギーの転換、製紙業では日本製紙が撤退したことが新しい記憶になります。

それに伴って、人口も大きく減少しています。1981年に23万人だった人口が42年経った2023年に15万8000人と8万人くらい減少しております。更に、2050年には10万人を切るのではないかとこの予測が出たのもつい最近のことです。釧路の非常に苦しい現状を皆さんは肌で感じていらっしゃるのではないかと思います。

そんな中で、どうやったら地域を発展させて行けるのかということで、いろいろ考えた結果が2番のなぜ観光に取り組むのかを少しお話させていただきたいと思っております。

これは、今年の青年会議所で委員長をする中で調べたものもあるのですが、最初は「観光立国推進基本計画」という閣議決定の書き出しの文章です。少し長いのですが、読ませていただきます。

「人口が減り、少子高齢化が進む中、交流人口・関係人口の拡大は地域の活力の維持発展に不可欠である。わが国には国内外の観光旅行者を魅了する素晴らしい自然・気候・文化・食がそろっており、コロナ禍以降もその魅力は失われていません。ウィズコロナ、ポストコロナにおいても観光を通じた国内外との交流人口の拡大の重要性に変わりはなく、観光は今後とも成長戦略の柱、地域活性化の切り札である」という書き出しでこの文書はスタートします。

これを読んだときに、まさに釧路は全部そろっているのではないか。ふたつの国立公園を有していて、ここでいう気候は日本には四季があるということですが、日本全国に四季はあります。その中でも釧路は冷涼な気候が挙げられます。あと文化、これはアイヌ文化であったり、食も海鮮・酪農と全ての要素が高い次元で釧路にはそろっております。改めて認識をした次第です。これから釧路を盛り上げていくには、こういうところをどれだけ外の人々に伝えられるか、ここが重要ではないかと私は考えました。

それ以外に釧路市が掲げている観光振興のビジョンがあります。ふたつの柱がありまして、少し長いのでまとめますと、「釧路の産業振興において観光は最重要



です。観光は外貨を稼ぐことができ、それを域内に循環することで幅広い産業との連携が可能である。さらには地域の魅

力を観光のニーズに合わせ、住む人・訪れる人の双方が心地よい魅力的な地域づくりをすることが必要であって、それが地域の魅力を伝えるために非常に重要である」というビジョンを釧路市としても掲げています。

実際、観光のニーズの変化はすごく、左側に「これまでの観光」と書いております。これまでの観光は割とパッケージ化されたパック旅行がメインで、観光地に一気に人を送り込んで、どちらかというと、消費して行くような観光スタイルだったのに対して、人々が求めるものは特にコロナを起点にして変わって来ていると感じます。地域の生活エリアでの交流とか人との振れ合い、若しくは暮らすように旅をすとか、ニーズは本当に大きく変わっていると感じています。

これは官公庁が出しているパック旅行・団体旅行の割合を示したグラフです。右肩下がりでパック旅行が減っているのに比例して個人旅行が増えている。まさに個人にニーズに合わせた旅行が変わってきていると考えることができます。

もうひとつ、大きな環境、旅行の変化が一昨年ありました。『アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道大会』が北海道で開催されました。これは、すごく大きなことだと思っています。

アドベンチャートラベルとはどんなものか改めて見ていただくと、アクティビティ・自然・文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行のことをアドベンチャートラベルと言います。

北海道はアドベンチャートラベルにおいては魅力的な地域であり、さらにそれを推進するうえで重要なことは何か。観光客と地域の人々の双方向でこれを実現す

るのが理想だ。自然・文化・地域を大切にしながら地域資源を観光に結び付ける取り組みが、このアドベンチャートラベルに求められると定義されております。

アドベンチャートラベルの世界大会が行われた時のアンケート結果、何を求めてATをするために来るのか、上位を見ていただくと分かるのは、1位はハイキング・ウォーキング、これは北海道では自然なことですが、3位は地元民との交流。これを50%近くの人々が求めているのです。これまでの観光では全然考えられないことと思います。5番目に伝統的な文化体験ということで、これも46%の方が回答しています。

それだけ日本人が考える一般的な旅行と海外から方、インバウンドの方が考える旅行の需要は違うのだとこれを見た時に僕は素直に認識をしました。

もうひとつのデータです。日本におけるATのテーマ。一番上、特有の文化、3番目に国立公園とあります。こういうことから、北海道、特に釧路地域における観光のポテンシャルの高さを改めて知ることができます。

アドベンチャーツーリズムを通じた北海道の維持可能な観光地域づくりとして、日本政策投資銀行が出したグラフです。一番下、観光消費の合計です。AT関連のみの観光客でも将来、現状の観光客に近い消費額になることの予測が出ています。2025年予測で500億円、5年後の2030年にはその倍の1兆円に、既存の観光客が2030年には1兆円に到達すると予測しています。これまでの観光とATが1対1の割合、合計で2兆円くらいの観光産業になるのではないかと予測されています。

本当に今と比べて20倍くらいの差が出て来ると思っています。これからのインバウンドや新たなニーズに対するものにどのようにアプローチをして行けばいいのかを考えたのが3つ目です。

今回、委員会の中でどのように考えようかと思って。皆さん、エアビーアンドビー (Airbnb) という会社・サービスを知っていますか。空き家を若しくは空いている建物を貸したい人と部屋を借りたい人をマッチングするサービスです。アメリカで始まったホームシェアリングのサービスで、いまやユニコーン企業として世界的に有名になってしまいましたが、この日本法人をしている事業部長さんと仲が良く、どのように釧路で観光を盛り上げて行ったらいいかを相談しました。その時に、エアビーアンドビーには掲げている地方創成があると教えていただきました。

これが、その時に話を聞いた内容です。コロナが蔓延してトレンドが変化してきている。これまでは旅行・観光と移住とが切り離されて進められて来た。それを関係人口という形で、もう一緒にたんにして考えて、どっちの可能性もカバーして行きたい。そして、外から入って来る人と地域との交流、これをベースに新た

な取り組みが生まれて持続可能な地域活性になって行くのですよ、と。これは、実際にエアビーアンドビーさんが日本のいろいろな地域で実践してきている結果があります。その中で出てきた答えではないかと思っております。

宿泊施設をベースにして、地域に来てくれる人、あと地域の人、それをホストと呼ばれる宿をやっている方が起点になってつなげてあげる、そうすることで、さっきのA Tのリーズナブル地域の住民との交流とかが成し遂げられるのではないかと考えています。

そのためにコーディネーター役がとても重要です。外から入ってくれる人と地域の人をうまくコネクションしてあげることがこれからの観光業に必要なと考えております。

エアビーアンドビーさんの事例をあげさせていただいたので、他の地域でどんなことをやって、どんな成果がでているのかをご紹介します。ご紹介します。

これは長野県飯田市でやっている事例です。長野県の南に位置するそんなに大きくない飯田市で、人口は9万8000人程です。釧路より小さな都市です。ひとつ、リニア中央新幹線がこれから開業するのが魅力というか、これから発展する可能性があるのですが、そんなに地域として魅力があるエリアではない場所だそう

です。そこに「天竜峡」というエリアがあって、ここをモデル地域としてエアビーアンドビーが協定を結んで街づくりに取り組んできました。まず宿を起点に、来た人と地域の人をうまくつないでやってきました。ここには飯田市長にも入ってもらい、Z世代とうまく交流して、地域の魅力はなにか、外から見た時のこの地域の魅力はなにか、を深堀しながらみんなで協議をしていく、そういう地域のコミュニティみたいなものをつくって行き、それを継続して行くことを繰り返してきました。

これがその時の会議の内容ですが、自分たちが見た地域の魅力と外から見た時の魅力、じゃ、自分は地域で何ができるのか、地域におおいて自分事として何ができるのかを考えるきっかけをこのコミュニティの中で生み出して行った形になります。

そういうことを地道に何度も繰り返した結果、メディアにも取り上げられて地域において認知度が広がって行きました。これを繰り返した結果、空き家をD I Yして活用先を見出して欲しいという問い合わせが増えてきました。その結果、そこをみんなでD I Yして宿を作ってみて、そこを拠点に観光客がやって来るといういい流れが続いていきました。

それ以外にも勉強会を開いて続けた結果、観光客の伸び悩みがあったり、宿泊施設の減少、空き家・空き店舗の増加など地域の悩みがあった飯田市でしたが、先

ほどの交流会・地域コミュニティや空き家のD I Y事業、あと農家の民泊事業向けの勉強会などが行われた結果、県外からのZ世代のUターンが増えたり、新たなイベントができたり、そのような地域にいいことがどんどん起こり始めてきたそうです。

その結果として、人と人のつながりづくりが評価された結果、『住みたいベストランキング』の本で、人口5万人以上10万人の街の中で飯田市は総合部門1位までになりました。甲信エリアの住みたい田舎でも総合部門1位です。徐々にそういう取り組みがジワリジワリと効いてきて、評価されたのではないかと思います。

この取り組みを釧路にも展開できないかということで、4番、今後の取り組みです。では、釧路で何ができるのかを考えて、私がいま取り組んでいることを紹介させていただきたいと思います。全部で3つございます。

一つ目は、観光業の取り組み。これは釧路青年会議所をとおして先ほど話したコミュニティづくり、交流型の観光に取り組んで、今後増えて行くだろうアドベン

チャートラベルの顧客をしっかりと釧路市の地域の人、釧路の人全体で受け止めて行きたいと思っています。

どのような流れかというと、まずは地域内外が交わる交流会を徐々に開催して行きます。これをズーっと定期的に開催します。そうすることで、その中でコミュニティが作られて行き、そのコミュニティの中で「私、宿をやってみようかな」「カフェやってみようかな」「観光のツアーを作ってみよう」などという人が現れて来るのではないかと思います。

「釧路はすごくいい場所だね」と来てくれる人が増えてくる。その中から長期滞在だったり、移住だったりとつながって行けばいいなと思っています。確かに、釧路湿原はすごくいい場所ですが「一度見たら来なくていいかな」と言う人も多くいると思います。実際に自分が旅行して行った先で、すごく自分のことを楽しく受け入れてくれるそんな人がいた時に、「また、あの地域に行ってみよう」と思うのではないかと。やはり人というのが重要になってくるというのが今回の取り組みのメインになるところです。「あの人に会いに行こう」、そう思ってもらえる地域を目指したいなと思います。

この取り組みが少し進捗して、今年、釧路市とエアビーアンドビーと青年会議所の三者で6月に連携協定を結ぶことが決まりました。いま言った取り組みを継続的にやって行こうと、そしてA Tを取り込ん



で行こうと今動いているところです。

二つ目、これは私が会社として取り組んでいる事業です。いま言った、誰かが地域で何かを起こして行く、それを誰かが行わないと、実績がないと人は動きにくいなと考えた時に成功するか分からないけど、まず自分が地域のために取り組むバカな一人目になってみようと思って、浦見町にある福島医院の建物を購入しました。ここをこれから宿泊施設にリニューアルをして行こうと思います。これから観光客が増えて行く中でこのような面白い宿泊施設があってもいいだろうと思って、地域の観光ツアーも作って地域の文化、地元の人との交流を、ここを拠点にして促していければいいなと思っています。

三つ目の取り組んでいることは、今までの観光とは少しズレてしまうのですが、面白い取り組みなので、ぜひ紹介させてください。

「&SPACE PROJECT」という取り組みを今、しております。これは何かといいますと、インターステラテクノロジズさん、堀江貴文さんが出資をして役員もしている会社から宇宙に上げるロケットの開発廃材を貰い受ける関係になって、それを貰い受けて、それを東京にいるデザインチームでその素材を生かした家具やアートプロダクトをイメージしてもらって、これを地元の業者に製品化してもらい取り組みをしております。

ここの下にいくつか関係の会社があって、サトケンさん、得地ファニチャさん、釧路製作所さんも一緒に取り組んでやっております。今の段階では事業化できるレベルではありませんが、このような面白い取り組みを拡げて行けば釧路が注目されるひとつのコンテンツになるのではないかと思います。

これは実際に作った物です。左上、ロケットの燃料タンクを加工して作ったベンチです。その横は本体のボディに使われているカーボンを使った椅子。これは得地ファニチャさんで加工してもらって、プロトタイプとしていくつか作っています。いくつか展示会に出してみています。2023年4月、『ニコニコ超会議』というイベントが東京であったので、そこに持ち込んで、インターステラテクノロジズさんのブースを少し間借りして展示させていただきました。非常に好評を受けて、写真で座っているのはホリエモンなのです。座っていただいて講演していただいて、改めてこういう取り組みについて言及もさせていただきました。

右は2023年11月に羽田イノベーションシティという羽田空港の横に新しい施設が出来上がったのですが、そこにも設置をして、来ていただいた方に話を聞いていただきました。その他、まだオープンにできませんが大阪万博にも出すことがおおむね決まっています。

もちろん、これから事業化をしっかりして行かなければ

はいけません、こういう面白い取り組みで地域のためになって行くようなことをやって行きたいと思っております。

駆け足で話してしまったので、これでお話は終わりののですが、最後にさっきまでの観光のPRをさせていただければと思います。

青年会議所でいま取り組んでいる「観光についての例会」が5月にあります。「民泊が開く地域観光資源化」と題して、エアビーアンドビーの事業開発部長に来ていただいて、どのようにすれば地域が面白くなっていくのか、そのような例会になっておりますのでお時間のある方はぜひ参加していただければと思います。

少し早くなってしまったのですが、内容としては以上となります。ご清聴ありがとうございました。

プログラム委員会 八幡 好洋委員長

五明さん、ありがとうございました。

皆さん、時間がありますのでご質問とかある方はいらっしゃいますか。

では、僕からひとつの質問ですが。五明さんが実際に取り組まれているふたつ目のところに福島医院さんの宿泊施設の話がありましたが、面白そうで僕、スタートしたら泊まってみたいなと思ったのですが、いつくらいからサービスが始まりそうとか進捗のイメージがあれば教えていただきたいと思います。

五明さん ありがとうございます。まだ確定はしていませんのですが、いま設計をしています。元々、音楽ホールとかにも使われていた建物で、そういうものを楽しめる施設にして行こうと計画を立てております。大体、7月か8月くらいにオープンできればと、いま設計をして、これから施工に入っていきます。よろしくお願いいたします。

謝辞 後藤 公貴会長

高いところから失礼いたします。本日はお忙しい中、私どものためにお時間を作っていただいた五明社長、本当にありがとうございました。

2021年に現在の社長に就任をされたことで、その時から劇的に自分の生活や生き方の環境が変わって、ふっと振り返ると健全な危機感と申しますか、この地域に対する危機感をもっていまご説明いただいたことに取り組んでおられるのだろうと、分かりやすくご説明いただきました。

釧路にはたくさんの方の魅力があることは皆さん、共通の認識だと思いますが、これを活用して動いて行くことが一番大切なことなのだろうと思うのです。これには年齢も何も関係なくて、やっぱり思い立ったらということ。もっと大事なものは、つながることだと思います。なかなか一人では難しいことが、同じ思いを持っ

た同士が集まれば大きな発展につながる、そう信じています。

これからもぜひご活躍をご期待申し上げております。最後に申し添えさせていただければ、私が30歳のときに、もし講師の誘いがあったら絶対に断つただろうという所に来ていただいたこと、そしていつの日か近い将来私どもの仲間、釧路ロータリークラブの仲間として、またテーブルを共にしたいと思っております。

これからの益々のご活躍にご期待申し上げまして、メンバーを代表してのお礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 後藤 公貴君 二次会のおつりがありました。
- 佐藤 貴之君 次男の写真を撮影して頂きました。
- 荒井 剛君 タイから無事帰国しました。地区大会に参加し、以前当クラブでグローバル補助金事業を行ったクラブのメンバーとも再開しました。

今年度累計 422,000 円